

沖縄本島中部の衛星画像
太平洋側 辺野古崎沖には、シロガシラが住みついてる。



東京湾の衛星画像。アツアツの海はたろが見える。

地理学の諸分野を学ぶ、 そして環境研究へ

本専攻のカリキュラムは非常に多彩です。これは、自然地理と人文地理などからなる地理学の諸分野を中心としながら、広範な環境研究にもアプローチしていくためです。1・2年次の間は、自然地理や人文地理の基礎や地域を総合的にとらえる地誌のほか、地理学研究の基本的な方法を学んでいきます。同時に、環境の学び方や自然保護などの具体的な課題へのアプローチの仕方についても学んでいくことができます。3・4年次になると、自然地理・人文地理の諸分野、地誌および環境研究に関するさまざまな科目の中から各自のプランに沿って選択して受講し、4年間の総まとめとなる卒業論文に備えることとなります。また、卒業論文の作成に向けては、10人程度の少人数からなるゼミ(演習)ごとに、一步一步、実力を身につけていってまいります。

専門科目一覧 ※印は必修科目

<1・2年次>

自然地理概説A・B(※)	気候環境と生活	自然保護と開発
人文地理概説A・B(※)	地表環境の生い立ち	日本の地誌
地域調査法(※)	日本の土壌環境	日本の景観と文化
自然環境調査法(※)	東京の自然環境	東京大都市圏
地理学野外実習A・B(※)	沖縄の自然環境	アジアの環境と人間生活
環境データ分析法	江戸東京の歴史地理	世界の民族と文化
空中写真判読	経済と人間生活	日本史概説A・B
地図学	サービスの地理学	東洋史概説
地形図判読法	旅の地理学	西洋史概説
地図製作法	環境イメージ論	考古学A・B
デジタルマップ製作法		

<3・4年次>

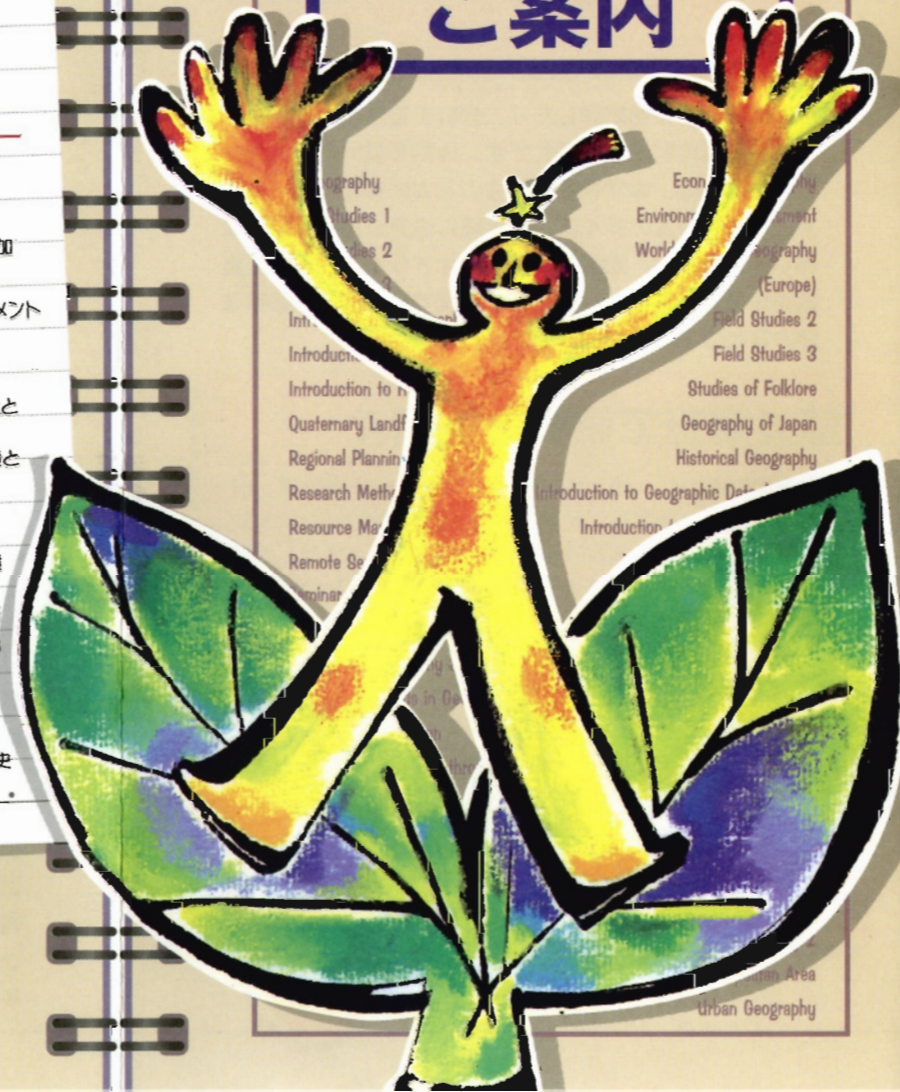
地理学演習1~4(※)	日本の水環境	地域計画と景観
地理学野外実習C(※)	海洋と陸水の科学	地域計画と住民参加
卒業論文(※)	日本の植生環境	地球環境保全論
統計情報学入門	地域の生態環境	環境問題とアセスメント
統計情報学応用	日本の土壌環境	環境経済学
社会調査とデータ分析法	歴史景観と環境	世田谷の地誌
計量地理学	交通の発達と環境	ヨーロッパの環境と人間生活
測量学1・2	レクリエーションと環境	北アメリカの環境と人間生活
測量実習1~3	都市空間と社会	熱帯・乾燥地域の環境と人間生活
環境リモートセンシング	都市空間と文化	オセアニアの環境と人間生活
環境リモートセンシング応用	民俗学	世界の社会と経済
地理情報システム	日本の民俗	日本文化の歴史A・B
地理情報システム応用	文化人類学	日本史の中のジェンダーA・B
洋書講読	文化と伝承	日本文化の歴史A・B
地域の気候環境	環境と文化	日本史の中のジェンダーA・B
グローバルな気候環境	社会環境と人間	国際交流の歴史
第四紀の自然史	農村資源の多面的利用	産業と流通の歴史
世界の地形	地域資源の管理	

国士舘大学 文学部 地理学教室

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1
TEL.03-5481-3231 FAX.03-5481-3328
<http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/>

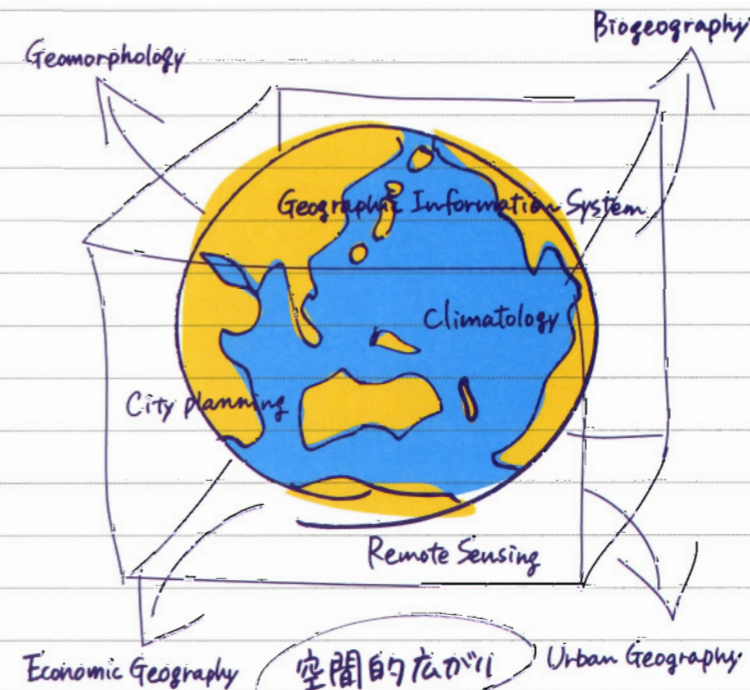
国士舘大学 文学部 地理学教室 ご案内

<http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/>



地理学とは? 環境とは?

私達を取り囲む環境は、空間的な広がりや時間軸とで構成されています。前者が地理学の、そして後者が歴史学の研究対象です。ものごとの空間的広がりの中には、規則性とか方向性、あるいは偏りとか特異性、例外性、広がりや分布といった現象が見られます。この空間的広がりや分布について理解を深め、そのメカニズムや法則性を検証する、というのが地理学の目的です。環境とは、私達の生活に関わる自然的・人文的な諸要因の全体を示す言葉です。本専攻では、環境の実態や問題について、地理学的な視点を中心に取り組んでいます。



4年間で身につけること

地理学教室では、学生に総合的判断力をつけてもらうために、4年間でこれだけのことを身につけさせたいと考えています。これらの事項は、自治体の都市計画・再開発・環境保全や企業による市場調査など、企画立案に関わる分野で、特に不可欠であると考えます。



地理学的なものの見方

地理学の基本テーマは「空間的広がり」です。といっても、簡単にそれが実感できる場合もあれば、地理学的訓練を積んでやっと見えてくるものまで、さまざまです。見えないものを見えるようにする。これが4年間の地理学教育の主要課題です。

関連分野と環境調査



カリキュラムの多くは、それぞれの学問の系譜と独自の調査法があります。たとえば、気候学で日本の気候を学ぶためには、気象学についての知識が必要です。経済地理学で、商業の話を理解するためには、経済学の基礎知識が必要です。本学専攻の学生は、4年間で各分野の専門知識を学ぶほか、各分野固有の調査法を学びます。いくつか例を挙げれば、土地利用調査、聞き取り調査、アンケート調査と集計、統計情報処理、天気図解析、気象衛星画像の見方、気象観測器材の扱い方、地形・地質調査、植生調査などです。そして、このような調査法を応用することによって、さまざまな環境問題の実態を明らかにすることができるようになります。

地図・測量・空中写真判読

事象の広がりを把握したり、分析するためには、地図や空中写真の利用が不可欠です。地図を描いたり、判読できることは、本学専攻の学生の基本的な能力といえます。また、学生の多くは、卒業時に測量士補の資格を取得していますが、光波測距機やセオドライトなどの測量機器が扱え、空中写真を正しく判読できることが適格条件のひとつです。

野外調査で観察力を磨く

地理学の魅力は、机上の学問ではないという点です。野外学習が頻繁に行われ、地理学的な見方を現地で養います。各学年に必修の野外実習科目が設けられているほか、それぞれの授業の中や、夏休みなどを利用した実習が多く組まれています。また、野外実習は学生同士や学生と教員の交流の場でもあり、充実した学園生活のひとつとして、学生に記憶されます。



リモートセンシングとGISを用いた環境調査

人工衛星がとらえた地球表面の情報を、画像として見ることが可能な時代になりました。本教室では、ランドサットやスポットなどの衛星データをコンピュータ処理する施設を備え、解析技術を学んでもらっています。GIS（地理情報システム）は、空間的な広がりをもつさまざまな事象をデジタル化して、地図と有機的に結びつけるツールです。リモートセンシングもGISも、これからの地理・環



境調査には必須の分野です。本学では、希望する全ての学生に、一人一台のパソコンを使って学んでもらっています。

情報処理システム

私たちの教室では、「パソコン・ワープロは鉛筆・消しゴムに代わる文明の利器である」との認識から、それらの教育に力を入れています。今では、卒論を手書きで提出する学生はほとんどいません。また、大量の情報処理を行うためには、目的に応じてパソコンを使いこなせる必要があります。そのため本教室では、情報処理教育に力を入れ、多くの専門科目を設けています。SPSSによる多変量解析や、地理情報システム（GIS）の実習でも、一人一台のパソコンを使っています。また、ひまわりやノアの気象衛星画像を受信する装置、各種天気図を受信する気象ファクスなども備え、授業にリアルタイムで活用しています。



厳しさの中に満足感

さて、4年間の締めくくりとして、学生には厳しい卒論審査が待っています。2年間に及ぶ卒論研究の成果が、公開面接試験でためされます。下級生で埋まる階段教室では、主査・副査・他の教員が矢継ぎ早に厳しい質問を浴びせます。努力した者だけが報われる試験場の雰囲気は、下級生のうちから思い知らされます。面接試験と併せて4年生に対して実施される、アンケート調査結果が毎年公表されていますが、大学生活最後の関門を通過しつつある学生の、満足感がにじみ出ています。

●卒論タイトルの例

自然地理

1. 気象データおよび生活感覚から捉えた「赤城おろし」について
2. 飯豊山地北西部玉川源流部の氷河の認定
3. 熊本県氷川流域における照葉樹二次林の分布とその特徴について

人文地理

1. 首都圏における日本なし産地の地域的特性—品種を中心に—
2. 明治期から昭和初期における神奈川県三浦半島の鉄道敷設過程
3. 子どもの属性と遊び環境の違いによる手描き地図の比較

環境研究

1. 東京都および周辺地域における酸性雨について
2. 東京西部におけるスギの衰退現象
3. 石垣島東岸サンゴ礁海域における陸域からの栄養塩の流入—晴天時と雨天後の全窒素の変化を中心に—